

日中関係学会 会員書籍の紹介：

堀内弘司 『中国で生きる和僑たち —そのトランスナショナルなビジネス・生活—』

*本書は、瞬間的ではありますが、Amazonの「中国に関する書籍」で2位、「起業・開業に関する書籍」でも21位をつけました。

<p>中国で生きる和僑たち —そのトランスナショナルなビジネス・生活—</p> <p>堀内弘司 著</p>	<div data-bbox="475 680 738 815"><p>早稲田大学・現代中国研究所 招聘研究員 堀内弘司 著 Koji Horiuchi</p></div> <div data-bbox="858 607 1233 857"></div> <div data-bbox="402 918 1222 1084"><h1>中国で生きる和僑たち</h1><p>—そのトランスナショナルなビジネス・生活—</p></div> <div data-bbox="363 1108 1316 1500"></div>
<p>桜美林大学北東アジア総合研究所</p>	<p>“自己中心的な中国人従業員”や、 “したたかな顧客取引先”、罰金や賄賂を要求する “よこしまな行政担当官”にどのように対応しているのか。 500人以上の中国在住の日本人たちの ビジネス経験と知識をまとめた大著、ついに発刊!</p> <p>桜美林大学北東アジア総合研究所</p>

■本書の <発行にあたって>より

早稲田大学アジア太平洋研究科教授・現代中国研究所所長 天児慧

これまで「日本人の中国ビジネス」に関する多くの研究が、研究者・ビジネスマンらによってなされてきた。しかし、大量のアンケート用紙を配布・回収した調査・研究は主に量的調査であり、「中国に越境してビジネス活動をしている人々の実態、リアリティが感じられない」という印象を持つものが少なくない。アンケート用紙のやりとりだけで統計処理をした論考では、中国で生きる人々の、生々しい体験や意識が感じられないのである。それとは逆のケースでは、中国滞在のビジネスパーソン of 極めて個人的な体験をもとにした個別的な書籍もあるが、教養書の域を出ないものという印象が強かった。

中国は、経済を始めあらゆる分野で急速な変化を示してきたが、本研究は 2009 年から 2013 年にかけて行われた調査分析の研究成果である。その主な期間中に、20 数年のビジネス経験を経て、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士課程に在学した堀内弘司氏は、上海・重慶・北京に留学し 1 年半あまり滞在しながら、中国に越境した日本人の経営者・ビジネスパーソン 500 名以上に出会い、そして、150 名近くの人々にインタビューを求め、丹念に、中国ビジネスに関する経験や知見を聴き取り、調査するという質的研究を行なった。

彼らがどのように中国で事業を興したのか。中国と日本では法律や慣習など、さまざまな文化・規範が異なるが、どのように異文化と対峙しているのか。たとえば、中国人従業員や顧客・取引先と、どのような人間関係を構築し日常のビジネス活動を行なっているのか。罰金や賄賂を要求する行政担当官には、どのように対峙するのかといった日中ビジネスの現場の実態には大いに興味注がれる。本書に描写された中国在住の日本人ビジネスパーソンたちの経験や知見は、他の現代中国の研究者にも役立つものになるだろう。

また、本書は“和僑”について探究するパイオニア的なものでもある。海外に越境しむしろその「場」を自身の中心的生活空間としていった新しい日本人＝“和僑”を日本自身がどのように受け止めるのか、日本の未来に降りかかるさまざまな問題を海外から支えていく可能性も秘めているかも知れない存在でもある。本書は、「日本人の中国ビジネス」についてだけでなく、「日本人のグローバリゼーション」のあり方についても考えさせてくれる。

■著者について

1960 年代の東京生まれ。米国系の IBM と Sun Microsystems の日本法人に約 10 年、NTT とセコムに約 10 年の合計 20 数年、米国で生まれた IT ソリューションなどを日本で市場開発するマーケティングや、ベンチャー企業の立上げに従事した。

社会人大学院生として、早稲田大学・アジア太平洋研究科に入学し、成長目覚ましい中国・アジアの新興国に越境して起業する和僑経営者に焦点をあてた研究をし、2015年に博士号(Ph.D.)を取得した。

なお、山梨県出身の祖父は、20世紀初頭に米国移住した戦前の和僑。15歳の若さで横浜から船に乗り移住して、クリーニング業、花屋、メロン農園、金融、酒造、富裕層向けのジャポニズム工芸品販売など、急激に変化する当時の米国社会の中でさまざまなビジネスを興した。

早稲田大学現代中国研究所、桜美林大学・北東アジア総合研究所、工学院孔子学院中国アジア研究センターの客員研究員を兼務(2016年時点)。国際アジア共同体学会(2015年度岡倉天心記念研究奨励賞)と日中関係学会(2016年度宮本賞)の2つの学会賞を受賞している。

■目次

◆第I部 理論的背景

第1章 序章

第2章 国際移住者とその異文化社会適応に関する諸理論

第3章 研究方法

◆第II部 事例研究

第4章 本研究のフィールドについて(歴史ならびに文化・制度の規範)

4.1 日本人の中国ビジネスの歴史

4.2 日本の歴史(世界が羨望する「一億総中流社会」から「下流社会」・「格差社会」へ)

4.3 日本人ビジネスパーソンの規範(Japanese-ish)

4.4 中国人ビジネスパーソンの規範(Chinese-ish)

4.5 中国ビジネスをする日本人エクスパトリエイトに関する文献・論考

第5章 トランスナショナルな日本人アントレプレナーの出現

5.1 和僑との出会い

5.2 和僑たちのキャリア・ライフヒストリーをまとめたモデル図

5.3 「誕生期・成長期」におけるキャリア(就業)意識形成

5.3.1 「世界一豊かな子どもたち」として育った70年以降生れの彼・彼女ら

5.3.2 「海外が身近な世代」の彼・彼女ら

5.3.3 「ジェンダー差別のない就業社会」へ

5.3.4 「誕生期・成長期」のまとめ

5.4 「就職・転職期」のキャリア概念と分析

5.4.1 突然のバブル崩壊、就職氷河期がやってきた

5.4.2 就職しても、キャリア意識が満たされない就業環境

5.4.3 「働きがい」を求めて、転職を繰り返す若者

5.4.4 日本にいても先が見えている

5.4.5 「就職・転職期」のまとめ

5.5 「中国への移住・起業期」のキャリア概念と分析

5.5.1 「移住プロセス」のカテゴリー

5.5.2 中国入国後の生活、創業資金の形成

5.5.3 語学学校を卒業後、「いきなり管理職」という図式

5.5.4 ジェンダー差別のない中国の就業環境

5.5.5 「ここでも安く利用される社員なのか」

5.5.6 中国で起業を決意

5.5.7 「中国への移住・起業期」のまとめ

5.6 彼・彼女らはどのような起業をするのか

5.6.1 「3つの起業パターン」

5.6.2 「なぜ日本でなく、中国で起業するのか」

5.6.3 「彼らの顧客は、日本人・日系企業に留まるのか」

5.7 彼・彼女らはどのように経営者資質を形成するのか

5.8 第5章 まとめ

第6章 日本人経営者(エクスパトリエイト)たちの中国ビジネス運営

6.1 いままで語られてきた、中国ビジネスの課題についての応答

6.2 起業

6.2.1 起業のきっかけとなったビジネスパートナーとの出会い

6.2.2 何を起業するか？

6.3 ビジネスを取り巻く人々との「関係構築」について

6.3.1 日本人経営者たちの中国人従業員への対応

- ・従業員スタッフのカテゴリー分析
- ・従業員スタッフの雇用
- ・管理スタッフ、営業スタッフの雇用
- ・従業員スタッフの教育・業務スキルの発見
- ・罰金制度／信賞必罰
- ・中国人従業員の「没問題」、「自分流」に対する関わり方・指導
- ・工場の工員に対する、働くモチベーションの創生
- ・営業や管理スタッフのインセンティブ、働くモチベーション
- ・大量辞職、幹部の失踪などの労使トラブルから学び、企業風土を再構築
- ・できない人間に対する退職勧告は

6.3.2 日本人経営者たちの中国人顧客・取引先への対応

- ・中国法人顧客への対応・「華人ネットワーク」の活用

- ・納期・品質・コストとの闘い
- ・大手企業や国有企業との商談は警戒する
- ・営業スタッフへのインセンティブ
- ・契約／分手
- ・「外人」が「公民」となる新たな社会での販売スキーム

6.3.3 日本人経営者たちの中国行政担当官への対応

- ・賄賂も罰金も税金も、ひとつにくくればコスト
- ・二重帳簿管理の背景
- ・社会保険の難しさ
- ・役所でのトラブル／法規範に対する戸惑い

6.3.4 「中国のことは中国人に任せろ」というストラテジー

6.3.5 「過去問にあたる」という中国ビジネスに対するストラテジー

6.4 中国ビジネスをする上で、中国思想は必須であるのか

6.5 中国語を喋れない、非自発的エクスパトリエイト（駐在派遣者）の様相

6.5.1 中国語が喋れない総経理(社長)の、現地法人の組織構造

6.5.2 在中日系企業の25名の経営トップへのインタビュー

6.5.3 日本企業の「パッチワーク型人事」について

6.5.4 「コンプライアンス遵守」という日本企業の文化

6.5.5 日本企業は、「“特定個人による意思決定”を信用しない」

6.6 中国ビジネスに向く人・失敗する人

6.6.1 日系企業の駐在派遣社員に対する新たな動向

6.7 「Enjoy Beijing Life の人になる」

6.8 第6章 まとめ

第7章 トランスナショナル化する中国の大都市での日本人移住者たちの生活

7.1 世界第3位の外国人訪問国である中国

7.2 日本と変わらずに生活できる北京

7.2.1 居住、社会領域、帰属意識

7.2.2 お金・財産形成・老後の生活

7.2.3 衣食住／文化

7.3 将来の計画

7.3.1 トランスナショナルな財産形成

7.3.2 「老後に和僑になる」。マレーシアに夫婦で移住：退職移民への準備

7.3.3 ハーバード大学に留学せずに、中国の名門大学に留学する大学生たち

7.4 中国移住した”彼・彼女ら”が、ディアスポラを考える事態が発生

7.5 第7章 まとめ

第8章 むすび

- 8.1 4つの“研究の問い”に対する研究の結果
- 8.2 移民理論に関するあらたな発見・仮説理論
- 8.3 本研究から考察するあらたな国際移動のイメージ
- 8.4 国際移住者研究における、あらたな類型区分に関する論考
- 8.5 本研究を通じての、これからの日中関係に対する考察